

研究内容の説明文

献血者説明用課題名 (括弧内は公募申請課題名)	アレルギー性気管支肺アスペルギルス症における多様な IgE 抗体の検討 (健常者、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症患者における自然 IgE 抗体、高/低親和性 IgE および IgG4 抗体の検討)
研究開発期間 (西暦)	2025 年 4 月～2026 年 3 月
研究機関名	東海大学医学部
研究責任者職氏名	教授・浅野浩一郎

研究の説明

- 研究の目的・意義・予測される研究の成果等^{*2}
アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (ABPA) という疾患にはアスペルギルスという真菌 (カビ) に対するアレルギーが関与します。特に免疫グロブリン E (IgE) という蛋白質が重要な役割を果たしますが、アスペルギルス菌に対する IgE だけでなく、その他の多様な抗原に対する IgE が産生され、病気に影響している可能性を検討します。また、感染免疫に関与する免疫グロブリン G (IgG) や IgG の一つである IgG4 の総量との関係についても検討します。これによってアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の病態が明らかになるとともに、より有効な治療法の開発が可能となると期待されます。
- 使用する献血血液の種類・情報の項目
献血血液の種類：保管年限 (11 年) を超えた調査用の血液 (平成 17 年 10 月採血分)
献血血液の情報：年齢、性別 (ただし、個人を特定できる情報は切り離す)
- 共同研究機関及び研究責任者氏名
《献血血液を使用する共同研究機関》
大阪大学大学院医学系研究科生体防御学 茂呂和世教授、本村泰隆共同研究員
徳島大学先端酵素学研究所 木戸博特任教授
《献血血液を使用しない共同研究機関》
なし
- 献血血液の利用を開始する予定日
2025 年 6 月 1 日
- 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》
献血血液のヒト遺伝子解析：■行いません。 □行います。
ABPA および ABPA 類縁疾患 (真菌感作喘息、慢性肺アスペルギルス症等) の患者の様々な IgE/IgG/IgG4 抗体価を測定します。また、同様に献血者由来の血清についても健常人の対象として IgE/IgG/IgG4 を測定します。共同研究機関である大阪大学と徳島大学にも血液が送られ特殊なタイプの IgE が測定されますが、これらの施設へは個別の献血血液の情報は送付されません。疾患群と健常人を比較し IgE/IgG/IgG4 抗体の種類と疾患の関係を統計的に解析します。その際に、献血者由来の血清について「アレルギー性気管支肺真菌症の新・診断基準の検証と新規治療開発」研究 (2016 年) で測定した IgE/IgG 抗体価の結果の一部も利用します。
- 献血血液の使用への同意の撤回について
研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

7 上記 6 を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

※2：文章は、献血者にわかりやすい表現で作成してください。

受付番号

R070008

本研究に関する問い合わせ先

所属	東海大学医学部 呼吸器内科学
担当者	浅野浩一郎
電話	0463-93-1121
Mail	ko-asano@tokai.ac.jp